



知っておきたいジャパニーズテキサンの伝記 その②

# グレン・ヨシアキ・権藤さん

Mr. Glen Yoshiaki Gondo

<前編>



▲グレン・ヨシアキ・権藤氏

年が改まり、昨年から世界を大きく変えたコロナ禍も新しい局面を迎えています。ワクチンの接種が始まるという明るいニュースがある一方、変異株が発見されたという心配なニュースもあります。目に見えないコロナウイルスという人類共通の敵のために、世界が協力する姿がある一方、雇った者と雇っていない者の間の差別、失業による貧困の拡大、国境の閉鎖といった新たな問題も大きく浮かび上がってきました。今までの、人種や宗教観による差別や争いや断絶は人為によるものでしたが、コロナウイルスは、そういった争いを凌駕する天為ともいえるでしょう。

世界中の人種が集まっているアメリカの中でも、ヒューストンはその割合が一番均一であると言われています。世界中が寸断されている今、たくさんの人種を抱えながら発展しているヒューストンには、これから向かうべき未来のヒントがあるかもしれません。人と人とのつながりの重要性をより深く感じる中で、日系の先人たちが進んできた道のりから学ぶこともまた多いはずで。

ガルフストリームでは、ヒューストンの日系人の方々にスポットをあて、その生き方や考え方を紹介していきます。第二回は、1990年からヒューストン日本商工会の準会員であるGondo Company Inc.のグレン・ヨシアキ・権藤社長のお話です。  
(文責：佐藤暁子)

グレン・ヨシアキ・権藤の父寿太郎は、ワシントン州シアトル生まれの日系二世、母ヒサコは、ハワイ州ホノルル生まれの日系二世である。ふたりは、コロラド州のグラナダ収容所(Granada War Relocation Center)(通称アマチ収容所(Camp Amache))で出会って結婚。3年半の収容所生活の後、終戦にともないカリフォルニア州に移り住んだ。グレンは、姉と戦後生まれの二人の兄に続き、一家の末っ子として1948年12月にカリフォルニア州ロサンゼルスで生まれた。権藤夫妻は、ロサンゼルスで中華レストランを開いたがあまりうまくいかず、1950年に同州ワトソンビルに「ブラセロ計画」の一環として労働者施設を開設した。

\*ブラセロ計画：スペイン語で「手動労働者」または「腕を使って働く人」の意。1942年に米国－メキシコ間で開始された農場労働者に関する外交協定。この協定は、議会によって1949年の農業法(公法78)の改正として制定され、1951年の移民労働協定によって延長され、1964年に終了。

## ●幼少期を過ごしたカリフォルニア州ワトソンビル

一戦後のお生まれとのことですが、幼少期を過ごされたワトソンビルの思い出は、どのようなものですか？

「両親は『ゴンドー・レイバー・キャンプ』という施設を運営してね、メキシコ人が1500人くらいいたよ。20人くらいから始めたんだけど、母は経営の才能があって、キャンプを大きくしていったんだ。両親は、みんなが住むところを用意し、施設のメキシコ人がメキシコ料理を食べられるようにメキシコ人の料理人を雇ってた。15台のトラックに皆を乗せて、地域にあるあちこちの農家に連れて行って、苺、レタス、トマト、えんどう豆、なんかの収穫をしてもらったよ。1950年代から1961年の話さ。

ワトソンビルは、小さな農村で、ビーチは5マイル先、山からは1マイルくらいの谷間の自然豊かできれいな所だった。僕は馬に乗ったりキャンプをしたり…、とっても楽しい少年時代だったよ。

ついでに言うと、小学校5年生の時、妻のキャシーが同級生でね。クラスで一番可愛い子だった。(笑)」



▲小学生の権藤氏とお父さん

—ということは、日本人が多かったのですか？

「農業をしている日系人が多かったね。他の人種もいたけど、とってもしベラ的な土地柄で、人種差別を感じたことは一度もなかったよ。」

—おうちでは日本語を話していたのですか？

「父はシアトル生まれだけど、3歳の時に日本に帰って日本で教育を受けた、いわゆる「帰米二世」だから、日本語の方が楽だったと思う。母はハワイ生まれで、日本で三味線を習ったりしていたから、日本語も達者だったので、二人の間では日本語で話していたけどね、家族では英語。僕は、日本語はほとんど話せないよ。挨拶と数を数えるくらい(笑)。

第二次世界大戦のとき、二人とも強制収容所にいられたけど、ふたりともアメリカを悪く言ったことは一度もなかったね。」

## ●ダラスへの引っ越し、レストランビジネスへ

—ずっとカリフォルニアで育ってこられたのに、テキサスとはどういうご縁があったのですか？

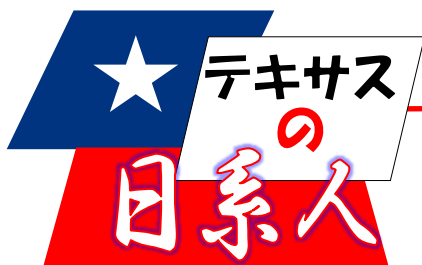
「1961年に、ブラウン知事が外国人労働者を禁止したので、両親はキャンプを閉鎖しなければならなくなった。その時サンフランシスコにいた\*\*ジャパンフードコーポレーション(JFC)の社長が、ダラスで日本食のレストランを開かないか、って両親に言ってくれたんだよ。それで、1962年に一家でダラスに来て、『さくら』というレストランを始めたんだ。」

—なぜダラスだったんですか？

「JFCが、ダラスの南西部に最初の倉庫を作ったんだ。日本の食べ物や調味料なんかを販売するためにね。それで、レストラン『さくら』でもJFCの製品が買えるように、ってこと。両親は日本から日本人シェフまで呼び寄せてさ。当時、アメリカのスーパーマーケットは日本製品を売っていなかったから、ダラスの日本人は、レストランに来てお米や醤油なんかを家庭用に買っていったよ。僕はその時15歳くらいだったけど、店で皿洗いの仕事をやってた、最低賃金で！(笑)」

\*\*ジャパンフードコーポレーション： JFC Internationalは、1906年からさまざまな形で存続し、1958年に正式に設立された米国におけるアジアの食品の主要な卸売業者および販売業者。自社製品に加えて、他の国際企業からブランド製品も輸入している。1969年に日本のキッコマンの傘下となり、1978年にJFCインターナショナルとなる。

(次月へ続く)



知っておきたいジャパニーズテキサンの伝記 その②

# グレン・ヨシアキ・権藤さん

Mr. Glen Yoshiaki Gondo

<中編>



▲ジョージ・H・ブッシュ大統領(左)と権藤氏(右)

2月号に掲載した「テキサスの日系人」シリーズ第2話のグレン・ヨシアキ・権藤さんのお話の中編です。前回までのお話:日系二世の両親のもとに生まれたグレン・ヨシアキ・権藤は、カリフォルニアのワトソンビルで幸せな少年時代を過ごす。15歳の時、両親がダラスにレストランを開くことになり、テキサスに移住した。

(文責:佐藤暁子)

## ●高校・大学、カリフォルニアからマイアミ、ニューヨークへ、そして結婚

—ダラスで高校を卒業したのですか？

「いや、高校の最後の年はワトソンビルに戻ったんだ。ずっと一緒だった友達と、同じ高校を卒業したかったから。」

—卒業後はどうされたのですか？

「テキサス州デントンのノーステキサス大学でビジネスを専攻したんだけど、途中でカリフォルニアに戻って、UCLAやUSCに行きました。ロングビーチのカリフォルニア州立大学に彼女(キャシー)がいたので、どうしてもカリフォルニアにいたかったんだ。高校卒業してから付き合い始めたから。…わかるでしょ。(笑)」

—大学を終えてから、テキサスに戻ったのですか？

「いや、両親の日本食レストランを手伝うためにカリフォルニアからマイアミに。それから今度は、両親の他のレストランを手伝うためにオクラホマシティに行ったんだ。」

1973年に僕はキャシーとカリフォルニアで結婚して、友人に冷凍食品関係の仕事もらったんで、そのままそこに住むことにしたんだ。

そのころ、父と兄がニューヨーク市でダイヤモンドの輸出入の商売を始めてね。それで、父がダイヤモンドのビジネスを手伝ってくれて言ったんだ。だから、冷凍食品は2年くらいでやめて、キャシーと二人でニューヨークに引っ越したんだよ。1975年くらいだったかな。

イスラエルに行ったらダイヤモンドを仕入れては日本に輸出したよ。そのころの日本は、経済が上向きになってきていて、ダイヤモンドがよく売れたもんだ。」

—ニューヨークはいかがでしたか？

「楽しかったよ。エキサイティングな街だからね。とっても充実した8年だった。できたらまた住みたいよ。」

## ●「東京ガーデン」と商工会の設立

—そんなに好きな所だったのに、引っ越したんですか？

「母がヒューストンのレストランを任せたいというので、ヒューストンに引っ越したんだ。ニューヨークに住んでいた間も、しょっちゅうヒューストンに行っただけでね。僕は1985年にレストランの総支配人になって、その年に息子(ロバート)も生まれました。」

—ヒューストンのそのレストランは、とても有名ですね。ヒューストンに昔から住んでいる人なら、みんな知っています。

『東京ガーデン』だよ。I-610ループのすぐ内側のウェストハイマー沿いにあったんだ。1966年に両親がダラスに続いてヒューストンに開いた2号店で、両親のお店の中ではこれが一番大きかった。

日本人建築家を雇って釘を使わない日本の伝統的な工法で300人も入れるレストランを建てたんだ。2エーカーの土地で、障子や畳の部屋があっ

て、靴を脱いで上がるんだよ。鯉の池や花道のある日本式の舞台まであってね。ここで日本舞踊を見せたり、生け花、お茶、餅つきなんかもやったよ。そのころは『東京ガーデン』が日本文化をアメリカに伝える役目をしてたんだ。日本人が経営しているレストランはここだけだったから、日本を恋しがってる日本人や、日本文化を体験したいアメリカ人には憧れのレストランだったんだね。

そうそう、そのころ、綿の輸入の仕事でヒューストンに日本企業が来始めて、日本商工会を作ることになったんだ。三井、三菱、住友の支店長と、当時の総領事が『東京ガーデン』に集まって、相談がまとまって、…だから、JBAHは『東京ガーデン』で生まれたと言える。(笑)



▲ジェイムズ・ペイカー国務長官(第61代、ジョージHブッシュ政権時)のご家族と、東京ガーデン入口で。ペイカー国務長官は、ヒューストン出身で、お寿司が好きだったので、よく来店された。

1967年10月6日に開催された商工会の「創立総会」は、42名が参加し、総領事館の公邸にて行われたと議事録に記載されている。また、記録によれば、1967年11月15日に第一回常任委員会がTokyo Gardensにて開催された。その後、常任委員会はTokyo GardensとWorld Trade Clubを会場として開催されていたと記録されている。

当時商工会に加入されたのはグレン氏の父である権藤寿太郎(Jutarō Gondo)氏で、1979年～1989年までTokyo Gardens代表として準会員となった。1990年からは会員名がグレン(Tokyo Gardens)に変更され、1999年から所属先がTokyo GardensからGondo Companyに変更となり現在に至っている。(次月へ続く)



▲東京ガーデン



# テキサスの日系人

知っておきたいジャパニーズテキサンの伝記 その②

## グレン・ヨシアキ・権藤さん

Mr. Glen Yoshiaki Gondo

<後編>



▲2013年春の叙勲での旭日小綬章受賞 (左から、キャシー夫人、権藤氏、長男のロバート・権藤氏)

2月号から連載している「テキサスの日系人」シリーズ第2話のグレン・ヨシアキ・権藤さんのお話の後編です。前回までのお話：15歳でカリフォルニアからダラスに引っ越したグレン。幼馴染との結婚、ニューヨークでのダイヤモンドビジネスなど様々な経験の後、いよいよヒューストンでの本格的な日本食ビジネスに乗り出した。

(文責：佐藤暁子)

### ●花開くヒューストンでのケータリングビジネス

一日日本人にとって、日本食が食べられるお店はありがたいです。もちろんお寿司も出していたのでしょうか？

「1971年に、両親が4席だけの寿司バーを作ったんだけど、そのころのアメリカ人は、まだ誰もお寿司なんか知らないから、来るのは日本人だけだった。僕は、両親が日本の文化や生活様式をよく知っていたし、レストランをやっていたから、小さいころから日本食はよく食べていたけどね。

僕が85年に支配人になった時、ミュージシャンとかアーティストとか俳優とかがよく来るようになったんだ。そういう人達ってお寿司が好きだったんだよ。そのころ、お寿司がヘルシーフードとして流行り始めたんだね。

それで、僕はお寿司のケータリングビジネスを始めようと思って、ホテルとかあちこち回り始めたんだ。87年ころだったかな。隣のウェスティンギャラリアホテルに、お寿司の売り込みに行ったんだ。カリフォルニアロール100個を無料でいいから試してみたって。僕がお金を取らなかったんで、母には怒られちゃったけど、これがホテルでは大ヒットして、それ以来いいお付き合いしてるよ。そして次は、東芝、三井、三菱なんかの日本企業主催のあちこちのイベントで、ライブ寿司バーを始めたんだよ。

僕は1987年にフィエスタスーパーマーケット8店で寿司バーを開いたんだ。あまりうまくいかなかったけど。あのころスーパーでお寿司や日本食を置くのって、時代を先取りしすぎちゃったんだらうね。それから、HEBがヒューストンに出店を始めたんだ。

それで、2002年にフレンズウッドのHEBに寿司バーを開いた。お客さんがたくさん来て、大成功さ。幸運なことに、そのあともHEBで次々に寿司バーを開くことができ、今ではテキサス州内のHEBに260以上の寿司バーがあるよ。



▲1990年のヒューストンサミットで、日本料理を担当することになった権藤氏。準備の整った会場にて。 ▶海部総理(当時)と。



1999年、グレンは、コンチネンタル航空と契約を結び、ヒューストンから成田に飛ぶ路線で日本食を提供した。そして2015年には、ヒューストンから成田までの全日本航空に日本食を提供する契約を結んだ。その後もケータリング事業は拡大し、現在、大学、企業、病院にも寿司バーを出店している。

### ●アジア系アメリカ人として

一前回お話を伺ったドナ・コールさんから、権藤さんを通じて、日本人・日系人社会とのつながりができたというお話を聞きましたが、そちらの方面についてもお話しいただけますか？

「1968年にヒューストン日米協会ができた時、レストランに来たメンバーに、『君、英語がうまいから、日米協会に入ってよ』(笑)って誘われて、会員担当委員として入会したんだ。任務は、法人会員を募集すること。その後、JASHの会長にもなったよ。

両親が、日本文化を広めることに力を入れていたから、僕も何かやりたいと思っていて、ハーマンパークの日本庭園をヒューストンの人に知ってもらうために、ジャパンフェスティバルを計画したんだ。

僕は日系アメリカ人だけど、アジア系アメリカ人でもある。コロナの影響で世界はこれからものすごく変わっていくと思う。これからはアジアコミュニティがひとつになって、いろいろな問題に取り組む必要がある。一番大切なのは、お互いを同じ人間として見て、皆に敬意を払うってことだよ。これが僕の信条さ。僕が地域社会で活発に活動しているのは、できれば、いつでも他の人を助けたいと思ってるからなんだ。」



グレンは、アジア商工会議所のアジア系アメリカ人起業家賞や、1999年にヒューストンで開催されたマイノリティビジネスニュースヒューストンのリマークブルマイノリティビジネスアワードなど、事業家として多くの賞を受賞。

また、ビジネス以外に、ヒューストンのアジア ▲2018年ジャパンフェスティバルコミュニティへも大きな貢献をしている。ヒューストン日米協会(JASH)の会長(3回)、チャオアジア研究センター、アジア協会テキサス、アジア商工会議所、グレーターヒューストンパートナーシップ、世界貿易機関、ユナイテッドウェイ、Alley Theater、ライス大学など、12団体もの理事を歴任してきた。

ヒューストン市長アジア問題諮問委員会の委員長に選ばれ、アジア太平洋アメリカ遺産協会からの2005年コミュニティサービス遺産賞、アジア協会からのアジア系アメリカ人リーダーシップ賞など、アジアコミュニティからも数々の賞を受賞した。こういった功績を認められ、日本政府から2013年春の叙勲で、\*\*\*旭日小綬章を授与された。

その他、日系アメリカ人市民同盟(JACL)ヒューストン支部のメンバーとして、\*\*\*\*日系アメリカ人の記述についてテキサス教育委員会に呼びかけた結果、学校の歴史カリキュラムにそれらがまれることとなった。

\*\*\*旭日小綬章:明治天皇によって1875年に設立された。1981年以来、外国人がこの賞の対象となっている。

\*\*\*\*日系アメリカ人の記述:1)ルーズベルト大統領による日系アメリカ人を抑留するために行った執行命令9066 II、2)主に日系アメリカ人で構成された第442連隊によるテキサスの第36歩兵師団の救出について。

インタビューに奥様と色違いでおそろいのマスクをして現れた権藤氏。「コロナにかかると危ないからって、3月から息子がオフィスに行かさせてくれないんだよ。だから最近は毎日ゴルフ三昧なんだ」と、日に焼けた顔をほころばせた。

順風満帆のビジネス成功譚は、アメリカンドリーム実現の見本のようだが、その陰には権藤氏が長年に亘って築き上げてきたネットワークの存在がある。成功の秘訣を伺うと、「成功したら還元すること。」と返ってきた。

自分が困っている時は助けてもらえばいい、しかし、自分が助けられる時はためらわずに手を差し伸べる。世の中にあるのは人種ではなく、困っている人と困っていない人なのだ。権藤氏のお話から学んだのは、これからの世界に一番必要な考え方であった。

<参考>

JFC International, Glen Yoshiaki Gondo oral history interview and transcript, July 12, 2011 (rice.edu), PRESS RELEASE (emb-japan.go.jp)